

## 令和2年度 県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい資質・能力を身に付け、国際的な視野をもった社会に有為な人財の育成を図る学校。 ○叡智・・・優れた知恵を獲得し、物事の事実や審理を探究する ○仁愛・・・情け深い心で様々な人たちと互いに尊重し合って交流する ○創造・・・豊かな発想をもちこれまでにない新たなものをつくる						
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況				
1 行事精選の一環として、テスト回数を削減し、授業中心の学習指導の方向性を打ち出すことができた。さらに、Youtube動画配信システムを構築し、熱中症等の対策としての儀式簡略化や授業の動画配信が可能になった。課題としては、授業時間確保のための係の負担が大きいこと、生徒が主体的・能動的な学習習慣を確立するために、各教科の課題の質と量の精選を行うこと、地域や保護者との信頼関係を構築するための開かれた学校づくりの促進がある。	1 探究力と学びに向かう力の育成	① 教科横断的・課題解決型授業の研究と実施 ② 自主的・能動的な学習習慣の確立 ③ 「思考力・判断力・表現力」を育成する言語活動の充実 ④ SSH指定の効果的な活用と探究活動の充実 ⑤ 学校図書館活用の促進	A	B			
	2 生き方を主体的に選択できる力の育成	① キャリア形成を視野に入れた適切な進路指導 ② 国際理解教育の推進による多様な文化を受容できる力の育成 ③ 生徒会やHR等自治活動の充実による自律の精神と奉仕する心の育成 ④ 部活動への積極的な参加	B		B		
	3 安心・安全を守る	① 自律的で責任ある生活習慣の確立 ② 一人一人に寄り添った生徒支援といじめの未然防止 ③ 教育相談機能の充実と生徒自身の自己解決能力の育成 ④ 校内点検の充実による危険箇所の早期発見及び学校安全計画や危機管理マニュアルの見直しによる学校安全の推進	B			B	
	4 開かれた学校づくり	① 地域の小中学校等と連携した教育活動の展開 ② ボランティア活動や部活動を通じた地域行事への積極的な参加 ③ 学校Webページの充実 ④ 保護者や学校評議員等との緊密・親密な連携	A				A
	4 70%を超える生徒が部活動に参加し、令和元年度は3つの運動部が全国大会に出場し、文化部は3つの部が全国大会に参加した。部活動の質的充実を図るとともに、学習時間と部活動の両立を目指しつつ、部活動等で抜けた学習について、学習を保証する仕組みを考える必要がある。	5 教育活動の充実 ※働き方改革の推進	① 勤務時間の管理と適正な勤務時間の設定及び勤務時間削減に向けた取組 ② 業務の役割分担と適正化にむけたPDCAサイクルの構築 ③ ICT機器を活用した業務の効率化及び情報の共有化による研修機会の確保				
		A					
		B					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(1①, 3③)	・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	B	・各教科の目標にICTの活用を取り入れ、授業内容の充実と更なる授業改善に努める。		
		・常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。	A			
		・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。	B			
教 科	国 語	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(1①, ③)	・到達目標の達成度を各単元毎に確認し、事後の指導の改善を図る。 定期的な小テストの実施(古典基礎の定着と応用発展・現代文の読解力・語彙力養成) ・他者との関わりの中での学び合いの機会(A・L)を設けることで読解力の向上を目指す。	B	コロナ禍による制限で、他者との学び合いの機会が充分には確保できなかった。次年度以降もこのような状況は続くと思定されるため、どのような関わり合いが設定できるかを改めて考えていきたい。	
		2 表現への興味・関心及び表現力の向上(1⑤)	・小論文・読書指導の推進 図書部・学年と連携しての小論文指導講演会の実施。	A		
		3 自学自習力の養成(1②)	・適切な自学用の教材の利用 現代文・古文・漢文の副教材やワークブックを使った、家庭学習の習慣化の指導。 教科書で学習した作者の他作品の紹介をし、読書活動につなげる。	A		
	地 歴 ・ 公 民	1 授業内容の工夫・充実(1①②③)	・課題の発見と解決に向けたアクティブ・ラーニングを取り入れ、探究型授業の工夫を図る。 ・大学入学共通テスト・私大記述に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。 ・主権者教育推進のため、時事問題を取り入れた授業展開を図る。 ・指導に生かす評価の工夫改善に努める。	A		・タブレット端末が導入されるにあたり、ICTを積極的に活用した授業を今まで以上に推進する。ICTの活用方法については、校内だけではなく他校の取り組みなどを参考にしながら、充実した活用を進める。
		2 カリキュラムの検討継続(1④⑤, 2①②)	・SSH指定校として、文系科目におけるきめ細かな指導の検討を継続させる。	B		
		3 視聴覚教材の有効利用(1①②)	・各分野における視聴覚教材の積極的活用と活用方法の検討を継続させる。	A		
	数 学	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(1②)	・(1年)教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに、演習ノートを提出させ、家庭における学習習慣の確立を図る。また、章末テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・(2年)問題集を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ+Bを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また、定期考査等を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・(3年)問題演習の際、各項目の基本事項を確認し、テストを行うなどして基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ⅠAⅡBの既習事項の問題集を活用し、基礎力の定着を図る。	A		・基礎学力の定着を徹底するための指導方法の研究。 ・パターン暗記ではなく、学習内容の本質を理解し数学的に考察する態度を育成する指導方法のさらなる研究。 ・理工系の興味や関心を高める授業内容の検討。 ・教員間で情報を共有し、生徒の能力、進路に応じた指導を継続して行う。
		2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(1③③③)	・(1年)章末テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図る。また、提出させた演習ノートやプリント等を活用し、個別に指導助言を行う。 ・(2年)ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。また、各習熟度別に希望者課外を実施し、より高い学力への到達を目指す。 ・(3年)ノートやプリント等の提出を通して、個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また、習熟度を考慮した平常課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。	A		
		3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(1①④②①)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	B		
理 科	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度を養成する。(1①②③④⑤)	・自然の原理・法則の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力を身に付けたりするために、探究的な授業形態を通して個に応じた指導や創意工夫して実験・実習を行う。 ・教科横断的な取り組みや、身近な科学的現象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。	B	コロナ禍においても、自律的に学習に取り組む為の取り組みを試みる。		
	2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(1①②③④, 4①②)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。 ・研究方法や科学的思考力など必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、教科横断的な取り組みを通して、実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し、地域の教育活動と連携し、科学への夢を育むため教育支援を行う。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	保健	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(1①)	・評価テスト問題の内容を検討し、授業改善を含め、身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心身の健康状態や感染対策に配慮し、積極的にICTを活用しながら授業改善や工夫に努める。</li> </ul>	
		2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(1②③)	・グループでの課題学習をはじめ、実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用により、より良い行動の選択ができるように授業を実践する。	A		
	体育	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(1①)	・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、授業改善を含め、学年の進行に合わせた、身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の安全と感染対策に配慮し、限られた施設使用になると思うので、その中で評価活動や授業内容の工夫・実践に努める。</li> </ul>
		2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(3①)	・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。	A		
		3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへつながる授業を実践する。(1①②③)	・種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題解決学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへつながるようにする。	A		
	芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成(1①②, 3①)	・感性を高め、生涯にわたって芸術を愛好する心情をはぐくむために、近隣の美術館やホールと連携して鑑賞指導の質を向上させ、課題解決学習の設定によって総合的に創造力や表現力を涵養する。	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での授業では感染症の状況等に配慮し、生徒の実態に応じて指導計画を変更するなど工夫した。安全管理に気を付けながら近隣の施設を十分に活用し、校外に赴いての活動の充実を図っていきたい。</li> <li>・早い時期から芸術系大学進学希望者への意識づけを行い、指導に生かした。</li> </ul>
		2 基礎表現力の育成と学習環境の整備(1③, 3③④)	・芸術三科間の協力を推進し、生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力をつけ、意図に応じた表現方法、表現技法を創造に生かす。また学びやすい学習教育環境となるよう整備に努める。	B		
		3 個人の能力・進路に応じた指導(2①)	・芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し、個の能力・適性に応じたきめ細やかな指導を行う。	A		
	外国語	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(1①②③, 2②)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な指導のためにオンライン環境の整備が望まれる。</li> <li>・4技能をバランス良く習得するために、授業における言語活動をさらに充実させていく必要がある。</li> <li>・基礎学力の定着および成績下位層への対応、大学入学共通テストのリーディングで求められる速読力の養成は今後の重要な課題である。</li> </ul>	
			・ALTとのTTやディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。	A		
			・希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	A		
			・大学入学共通テストのリスニングへの対応の充実と英作文指導を継続的に行う。	A		
・英語表現やサイエンス・イングリッシュの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。			A			
家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(1①, ③)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活・消費者生活・食生活以外の分野においても、ICTを活用しながら幅広い知識を身につけさせたい。実物を提示しながらのグループワーク等も多く取り入れ、主体的に課題に取り組む学習もさらに多く行っていきたい。</li> <li>調理実習は今年度見送ったが、状況が許せばぜひ実施したい。</li> <li>家庭クラブ活動も次年度はスクールプロジェクトを取り上げ、校内外活動で他団体と交流しながら研究を進めたい。</li> </ul>		
		・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。	B			
	2 実験・実習、体験学習の工夫(2②, 3③)	・実験や実習、実物の提示、グループワークを多くをり入れ、限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。	A			
		・被服製作作品、課題プリントレポート等を期限までに提出させる。	A			
		・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。	C			
	3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(2②)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。	A			
・家庭クラブ全国大会発表校として研究内容の充実を図り、昨年度以上の評価を受けられるように、計画的に発表準備を進めていく。 ・JAや地域の小学校及び大学とのつながりを継続させながら、次年度も研究発表を行うことができることを目指し、新チームでの研究活動を開始する。		B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	1 探究力と学びに向かう力の育成を踏まえた教育課程の編成(1①②③④, 2①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。</li> <li>・教育課程の自己点検, 自己評価を通して, 水戸二高の将来像を見据えた, 新教育課程の研究に努める。</li> <li>・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌, 学年等と連携し, さらに活発な情報発信につとめる</li> <li>・校務支援システムの研究をすすめ, 円滑に運用できるようにつとめる。</li> <li>・タブレット, 教室用PC等のICT機器やwifiの維持管理を通して, 円滑にBYODが進められるようにする。</li> <li>・常置委員会と連携し, 積極的に生徒を主体とした学校PRを行う。</li> </ul>
	2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保(2①②, 3③, 5③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。</li> <li>・学校行事等の精選を行い, 授業時間を確保する。</li> <li>・週ごとに授業交換を行い, 自習時間のない時間割を編成する。</li> <li>・授業の動画配信について, より適切に活用できるように研究する。</li> </ul>	A	
	3 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理(5③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムが円滑に運用できるように努める。</li> <li>・ファイルサーバーのセキュリティーについて研究し, スムーズな運用に努める。</li> </ul>	B	
	4 ハード・ネットワーク, 視聴覚機器の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室, コンピュータ教室, 職員室等のコンピュータの維持管理に努める。</li> <li>・消耗品の在庫の管理に努める。</li> <li>・ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるように研究する。</li> <li>・視聴覚設備, 放送室・体育館の放送設備の適切な管理, 運営に努める。</li> </ul>	A	
	5 開かれた学校づくりの推進(4①③④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。</li> <li>・ホームページの更新頻度を維持し, さらなる充実を図る。</li> <li>・公開授業参観をさらに充実させる。</li> <li>・生徒のアイデアを生かした学校PRを模索する。</li> </ul>	A	
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立(3①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共マナーの向上を目指し, マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い, 生徒一人ひとりの規範意識を高める。</li> <li>・スマホ家庭のルールづくり運動を行う。</li> <li>・不審者や痴漢被害等に対して, 生徒の安全を守る行動を考える。</li> <li>・生徒会と協力して, 生徒の生活について考える。(制服変更検討委員会への参加)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の予防を徹底しての登校指導や講習会の実施方法検討。</li> <li>・タブレット使用に当たったの注意点の説明とスマホ家庭のルールづくり運動を行う。</li> <li>・保護者送迎の校内乗り入れの検討。</li> <li>・学校生活実態調査の活用。</li> </ul>
	2 交通安全指導の推進(3①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し, 自転車の安全運転指導や交通講話を実施する。</li> <li>・交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。</li> <li>・自転車安全点検(2回)を行う。</li> </ul>	C	
	3 いじめ未然防止・早期発見(3②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害調査(3回)を行う。</li> <li>・いじめ対応の研修会の開催やいじめ未然防止授業を行う。</li> <li>・教員間で生徒情報を共有する機会をつくる。</li> </ul>	B	
特別活動部	1 自主的活動の育成(4①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や毎日の生活をとおして自己を見つめる姿勢が身に付き, キャリア・パスポートを活用して自己の将来とのつながりが見通せるよう働きかけていく。</li> <li>・生徒会を中心に, 学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等, 積極的に取り組み, リーダーを育成する。</li> <li>・学校内外の教育環境に自主的に関わり, 行動する姿勢を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制約の多い中で工夫し協力しながら令和2年度に中止になった行事を実施成功させる。またその中でリーダーのあり方や自分の将来, 周囲への主体的な関わりについて考え, 行動する力を育成する。</li> <li>・二高生が学年を超えて支え合えるような試み(行事)を模索する。</li> </ul>
	2 奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚(4①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア精神を養うため, 校外のイベントなどにも積極的に参加する。</li> <li>・環境問題に継続して取り組み, 節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。</li> </ul>	C	
進路指導部	1 進路に対する意欲を高め, 学習時間の確保と自学自習力の育成指導 自学自習の週平均時間数 [3年] 30時間以上 [1, 2年] 20時間以上 (1①②③, 2①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会をはじめ, キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など, これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。</li> <li>・全学講座(年間14日)や課外の計画・実施。特に, 長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて, 柔軟且つ弾力的に運用する。</li> <li>・学年別に作成した進路ノートを効果的に活用し, 自学自習の習慣を定着させる。また, 幅の広い情報提供を行い, 生徒の進路希望の視野を広げる。</li> <li>・自学自習の習慣化を図るために, 集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては, 早めの受験体勢への切り替えを図っていく。</li> </ul>	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導部	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(1①②③, 2①②③, 3①) 模擬試験での成績 [3年]進研模試5教科総合学年平均偏差値55以上 [2年]進研模試3教科総合学年平均偏差値55以上 [1年]進研模試3教科総合学年平均偏差値57以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・授業・復習の学習習慣を定着させる。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。</li> <li>・生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。</li> <li>・進路資料・進路ノート・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進する。</li> <li>・長期休業前にはLHR等を利用して、進路ノートのポートフォリオを活用する。</li> <li>・卒業生から聞く学習法(OGインパルス)を2年生対象に開催するが、可能な限り1年生にも機会を拡大する。</li> <li>・保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体勢を築く。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響により今年度実施できなかった進路諸行事を、次年度には例年と変わらず実施できるように申し送りを円滑にしておく。</li> <li>・多様な学力層の生徒が入学している実情を踏まえ、効果的な進路指導のありかた、目標設定を考える。</li> </ul>
	3 生徒の第1志望実現のための援助促進、難関私立大学を含む国立大120名以上合格の達成(1②, 2①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テスト出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施を行う。</li> <li>・生徒の個性に応じて、推薦入試活用の助言を行う。</li> <li>・各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。</li> <li>・新学習指導要領の実施、大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。</li> <li>・共通テストに向けて、万全の準備態勢を整えると共に、各大学の受験情報の提供に努める。</li> </ul>	A	
図書部	1 「読書センター」としての機能の充実を図る。(1③⑤, 2①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHRビブリオバトルを行う。</li> <li>・LHRを利用しての読書活動を年1回実施する。</li> <li>・図書等の資料の充実を努める。特に進路に関する資料の充実に力を入れる。</li> <li>・電子書籍の購入についての検討を始める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の点から生徒図書委員の校外研修や店頭選書等が実施できなかった。また、中央・水戸地区の図書委員の研修会が中止となった。</li> <li>・密を避け、中庭や生徒ホールで「青空図書館」を実施した。今年度「図書館カフェ」を立ち上げ、生徒が企画・運営を行うカフェも実施した。</li> <li>・講演会やミライカフェの動画の整理を進め、生徒の利用に供したい。</li> <li>・今年度中に図書館の専用ページを開設し、来年度の足がかりとしたい。</li> </ul>
	2 「学習センター」「情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(1①⑤, 2①, 4③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のホームページに図書館の専用ページを開設し、情報を発信していく。</li> <li>・図書館を利用した探究・道徳「STARTプログラム」の授業を担うとともに「STARTプログラム」の冊子を作成し、指導の手引きを完成させる。</li> <li>・使用全教科書を閲覧できるようにしておく。</li> <li>・職員からの図書購入希望に随時対応する。</li> <li>・図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。</li> <li>・視聴覚資料の充実を図る。</li> <li>・図書館を利用する授業に対し、資料利用のオリエンテーションを行う。</li> <li>・小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。</li> </ul>	B	
	3 生徒図書委員会の充実を図る。(1⑤, 2③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週定例の図書委員会を開く。</li> <li>・生徒図書委員の校外研修を行う。</li> <li>・中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。</li> <li>・図書委員による特集を組んだ本の展示や読書を定期的に行う。</li> <li>・生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。</li> <li>・「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。</li> </ul>	A	
保健厚生部	1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備(3④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。</li> <li>・教室内の整理・整頓と清掃の徹底をはかる。</li> <li>・防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策の徹底に努める。</li> <li>・精神的に不安定な生徒が増えているので、生徒の情報をどのように共有し見守るかを考えていく。また、保健室登校の生徒についてどうすべきか、学校として考えなければならない状況にある。一部の教員に負担がかからないように取り組んでいく。</li> </ul>
	2 健康の保持・増進(3②③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。</li> <li>・心身の相談活動を推進する。</li> </ul>	A	
	3 奨学生関連事務の的確な運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学生募集の情報を確実に伝達する。</li> <li>・提出書類作成手続きの指導を適切に行う。</li> </ul>	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外部	1 P T A活動を円滑に実施する。(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係する分掌や学年と連携、協力して円滑に実施していく。</li> <li>P T A役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努め、「P T Aだより」をとおして教育活動を家庭に伝える。</li> </ul>	A	A <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍においても、希薄にならない結びつきのための取り組みを試みる。</li> </ul>
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの要望に耳を傾けながら、P T A役員間の信頼と連帯強化を図る。</li> <li>学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。</li> <li>P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に生かす。</li> </ul>	A	
	3 同窓会「秀芳会」との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>120周年記念事業に向けて更なる連携を推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。</li> </ul>	A	
教育デザイン部	1 S S H事業の推進 「水戸二高S S Hサイクルや主体的・協働的な学びを活用した、科学技術を牽引できる女性の育成」 (1①②③④2①4①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学教育プログラムにより、科学に対する興味や関心、知識、理解を深め、科学的思考力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境科学 ・ S S H講演会 ・ 自然科学体験学習 ・ 小中学校サイエンスサポート</li> <li>数理科学セミナー</li> </ul> </li> <li>(2) 科学研究プログラムにより、科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>S S 課題研究 ・ サイエンスイングリッシュ ・ 海外セミナー ・ サイエンスツアー</li> <li>研究発表会および交流会 ・ 科学系部活動 ・ サイエンス&amp;テクノロジーコンテスト</li> <li>科学系の専門家および科学系大学院生によるサポート</li> </ul> </li> </ul>	A	A <ul style="list-style-type: none"> <li>1 S S H事業の推進 &lt;Online活用&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校サイエンスサポート</li> <li>サイエンスイングリッシュ講演会</li> <li>サイエンスツアー</li> <li>科学系専門家、大学院生サポート</li> </ul> </li> <li>&lt;新事業へ向けた取組&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>D S 課題研究</li> <li>English for Performance</li> <li>データサイエンス特別講座</li> <li>チャレンジサイエンス</li> <li>Online大学ゼミ体験</li> </ul> </li> <li>2 国際理解教育の推進 &lt;代替実施の検討&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修</li> </ul> </li> <li>&lt;Online活用&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解活動や交流会</li> <li>グローバルフォーラム</li> <li>道徳講演会</li> </ul> </li> <li>3 探究・教科横断的学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>探究の学びテキストの刷新</li> <li>指導と評価の一体化へ向けた取組</li> <li>自己評価データの一元管理</li> <li>I C Tの実効的活用</li> <li>研究成果報告会の実施形態検討</li> </ul> </li> <li>4 積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>S S H研究開発成果の普及</li> </ul> </li> </ul>
	2 国際理解教育の推進 (2①②4①②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な文化や価値観を持つ人々との交流を通して、グローバルな視野を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解講演会 ・ 日本文化鑑賞会 ・ 国際理解活動や交流会への参加</li> <li>グローバルフォーラム ・ グローバルウィーク ・ グローバルカフェ ・ 道徳講演会</li> <li>ユネスコスクール加盟へ向けての研究と準備</li> </ul> </li> <li>(2) グローバルリーダーを育成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修 ・ 海外進学および留学の支援 ・ グローバルクラブ</li> </ul> </li> </ul>	B	
	3 探究・教科横断的学習の推進 (1①④⑤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) S S H4期目申請へ向けて、全職員および諸関係機関との連携により取り組む。また、S S H15年間の成果について検証し、本校独自の研究開発目標を明確にする。</li> <li>(2) 生徒の学習を支える評価法の研究と開発を行う。</li> <li>(3) 既存の探究プログラムについて検証し、プログラムの更新と開発を行う。</li> </ul>	A	
	4 積極的な情報発信 (4③5③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 校内での情報共有を進めるとともに、掲示板の積極的活用と充実を図る。</li> <li>(2) 学校HPによって、諸活動を随時発信する。</li> </ul>	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	1 高校生としての生活習慣の確立(2③④3①4②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談や進路ノート等の活用を通して、高校生としての自律的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。</li> <li>公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。</li> <li>清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、安全で落ち着いた学習環境を作る。</li> <li>部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を支援し、協調性やリーダーシップ等の育成に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路行事を効果的に実施し、進路意識の明確化を図る。</li> <li>特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育て、学校生活の充実を図る。</li> </ul>
	2 学習習慣の確立と学力向上(2②③⑤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を記録し活用することを通して、「予習・授業・復習」の学習サイクルの確立と家庭学習の習慣化を図れるよう支援する。</li> <li>各教科の課題を把握と必要な調整や精選を行うことで、生徒の主体的・能動的な学習習慣の確立を図る。</li> <li>「道徳」における探究活動を通して、自己の在り方生き方について考えさせるとともに、資料活用能力やプレゼンテーション力を養成する。</li> </ul>	B	
	3 進路意識の涵養(2①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して進路意識を高め、個々の夢や目標を早期に明確化し、主体的で適切な文理選択ができるように支援する。</li> </ul>	B	
	4 SSH・国際理解教育の推進(1④2②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>SSHに関する自然科学体験学習、課題研究発表会、講演会等への積極的な参加を促し、個々の可能性の発見や伸長を図れるよう支援する。</li> <li>国際理解のための講演会や海外研修を通して異文化を理解することで、多様性を受容し、グローバル化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。</li> </ul>	B	
第2学年	1 進路目標の明確化(2①3②③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会・大学模擬授業などの進路関係行事を効果的に実施し、進路意識の向上を図る。</li> <li>進路指導部と連携を密にし、的確な進路情報の提供に努める。</li> <li>個人面談を充実し、生徒の適正や希望の的確な把握と助言に努める。</li> </ul>	B	<p>長期にわたる休校や修学旅行をはじめとする学校行事の中止にともない、生徒の学校生活に対する意欲や深い人間関係の構築に支障をきたし、目標達成には至らない部分もあった。そこで、次年度は可能な限り機会をつくり、充実した学校生活を送れるよう関係各部とともに支援を続けたい。</p> <p>学習面においては、今後も個に応じたきめ細やかな指導を心がけ、生徒の進路希望の実現に向けて、学年・教科・進路指導部で協調した取り組みを推進する必要がある。</p>
	2 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上(3①1②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の予習・復習を軸とし、自ら課題を見つけ、主体的かつ計画的に学習に取り組むことができるよう支援する。</li> <li>課外・小テストなどを適切に設定し、個に応じた学習指導に努める。</li> <li>二高生として品位ある行動がとれるように指導する。</li> </ul>	A	
	3 LHR・総合的な学習の時間・特別活動等の活用(2②③④1①③④⑤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>白百合セミナーを通して、多様な歴史や文化を受容できる力を育成するとともに、環境問題への適切な認識や取り組みができるようになるための支援をする。</li> <li>道徳プラスを通して、規範意識を高め、協同する姿勢を育む。</li> <li>特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。</li> <li>調査や研究および発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。</li> </ul>	B	
第3学年	1 進路目標の明確化と進路希望の実現(1①⑤, 2①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>面談や進路講演会等を通して目標の確認・修正を行い、進路希望実現への意識を高める。</li> <li>模擬試験の結果を分析し、進路選択の指導・助言に活かす。</li> <li>進路指導部と連携し、的確な入試情報を提供し、意識の高揚と意欲の喚起を図る。</li> <li>情報の共有と公平性を確保する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した指導の充実</li> <li>生徒・保護者の多様化への対応</li> </ul>
	2 自学自習力の育成と学力向上(1②③④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習記録表や進路ノートを活用し、自分に必要な学習に計画的に取り組むよう支援する。</li> <li>常に効率的な学習をしているかどうか、生徒本人に自己評価をさせる指導を行う。</li> <li>目標に向かい、粘り強く邁進できる心を育てる。</li> </ul>	A	
	5 心身の健康と成長(3①②③④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理意識を徹底させるとともに、客観的視点に立ち物事を前向きに捉えられるよう継続的な指導をする。</li> <li>学年集会・HR・授業・個人面談等を通して、きめ細かな指導を継続的に行う。</li> </ul>	B	
	6 特別活動等の充実(2③④)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高学年としての自覚を持たせ、高校生活の集大成として諸活動へ意欲的に参加できるような環境作りをする。</li> <li>文化祭やクラスマッチの実行にあたり、リーダーシップを発揮し、中心となって活躍できるように支援する。</li> </ul>	B	

※ 具体的目標の後のかっこ内の数字は、1ページの学校の重点目標1①～7③との関連を示す。

※ 判定基準：A…非常に良くできた B…良くできた C…普通 D…やや不十分 E…不十分